

3年1組 道徳科学習指導案

日時 平成30年10月26日 第5校時
場所 小島小学校 3年1組教室

1 主題構成表

主題名 本当の友達

資料名 泣いた赤おに

■内容項目 B- (9)

友達と互いに理解し、信頼し、助けあうこと。

■内容項目から見た児童の実態（意識）

- ・学級遊びの時間を中心に、仲良く遊ぼうとする児童が多い。
- ・学級遊びの時間以外になると、気の合う仲間だけで遊ぶ姿が見られる。
- ・自分の主張を通そうとして、仲間の気持ちに気づくような行動がとれない児童もいる。

■要因

- ・物の考え方・好みの違う相手や異性とも遊ぶ良さをまだ知らず、色々な相手との交流をしようとする考えがまだない。
- ・表面的なものに目が向き、相手の気持ちを考えないで行動してしまい、一方的に意志を伝えるだけで、友だちと互いに理解し合うことがなかなかできない。

■価値の分析

- ・「友達」は児童にとって学校生活を左右するほどの重要な存在である。学び合いの場である学校において、児童は友達と助け合ったり、けんかしたりして、試行錯誤をしながら人間関係の在り方を学んでいる。友達は児童の社会性の基礎を築いていく存在と言える。
- ・特に中学年からは仲間意識がさらに高まり、一緒にできた達成感や楽しさを存分に味わえるとともに友達に対する悩みや葛藤も大きくなっていく。人のかかわり方を深く学ぶ大事な時期である。
- ・視野が広くなり、思考の幅も広がっていくこの時期にこそ、友達のことを知り、互いに前向きに助け合おうとする態度を育てたい。

■教材（資料）の分析

- ・青おにの赤おにに対する献身的な思いが深く心を打つ物語であり、「心から友達を思い、行動する」という視点から、友達とのかかわりを考えさせることができる資料である。
- ・本時では、問題場面を精選し、資料での意見交流の時間を多くとる。また、児童との距離がある資料なので、児童が登場人物を自分自身と重ね合わせて考えられるように配慮する。
- ・具体的には「親友に手をあげてしまった赤おに」に着目することで、葛藤する赤おにに共感できるようにする。

■ねらい

行動を共にするだけでない多様な友情の在り方があることを知り、相手の気持ちをよく考えるなど、よりよい関係を築こうとする心情を養う。

■他の教育活動との関連

<よいことみつけ>友達にしてもらって嬉しかったこと・してあげて喜んでもらったことなどを帰りの会で振り返り価値づける。

■事前

- ・学級遊びの振り返りで嬉しかったこと、嬉しかったことを交流する。
- ・助け合い等の良い姿を価値づける。

■本時

道徳
「泣いた赤おに」

■事後

- ・よい人間関係（支え合いや助け合い、教えあい等）について価値づけたリ、話し合ったりする。

2 本時の展開

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助 *人権教育の観点
導入	<p>1 「友達」に関わるアンケートの内容を交流する。 どんな人を「友達」だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一緒に遊ぶ人。 困ったときに助けてくれる人。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材を読む前のアンケート結果を提示することで、事前の価値理解の実態が分かるようにする。
展開前段	<p>2 資料「泣いた赤おに」を読む。 ○感想交流を行い、教材のあらすじを確認する。 ○青おにからの手紙を読んで、赤おにはどうして泣いたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 青おにがいなくなってさみしい。 優しい気持ちがうれしかった。 <p>◎赤おにが青おにのことを泣くほど大切に思っているのはなぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 困ったときに相談にのってくれたから。 いつでも自分のために行動してくれたから。 自分のために、全力で何とかしようとしてくれた大切な友達だから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>深めの発問</p> <p>○みんなが赤おにだったら青おにへどんな言葉を伝えますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> こんなにぼくのことを思ってくれたのに、気づかなくてごめんなさい。ぼくにとって君は大切な友達だと分かったよ。おねがだから帰ってきてください。 ぼくのことを考えて悪者役をしてくれたね。気持ちはうれしいよ。でもやっぱり君がいないとさみしいよ。またいっしょに遊びたいよ。ぼくも君をととても大切に思っているよ。 <p>○「友達」とはどんな人だと思いますか。 →1～2人を指名し、後段につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> お互いのことが分かる 相手の気持ちを考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵を提示しながら、あらすじやポイントとなる箇所を確認する。 理由をくわしく話させることで、道徳的価値について話し合うことができるようにする。 出た意見を板書に整理することで思考を可視化する。 状況に応じてペアやグループで相談することで、よりよい関係の在り方について、自分なりに考えることができるようにする。 理由を話させることで、行動の背景にある心情に視点を向ける。 <p>※青おにの赤おにに対する行動やそれに対する赤おにの思いついて話し合うことを通して、友達とは表面的な仲の良さだけでなく相手の気持ちを考えることなどが大切であることに気づき、仲間の意見に共感することで、自己のものの見方や考え方を改めようとする力を身に付ける。(自己啓発力)</p> <ul style="list-style-type: none"> 赤おにの立場に立って、青おにに対する思いをイメージし、よりその立場に立てるよう手紙形式で記述するようにする。 授業の始めに比べて、「友達」に対する自分達の考えが深まったり広がったりしたことが分かるようにする。 授業冒頭までの「友達」の認識と、教材を通して考えた「友達」の認識の違いや深まりがある児童を意図的に氏名する。
展開後段	<p>3 これからの友達との関わり方についてどのようなことを大切にしていきたいですか。 (プリントに記入する)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 記述が進みにくい児童には、問いかけながら考えを引き出すように机間指導する。
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事例を挙げながら、友だちの良さに目を向け、互いに認め合い「本当の友だち」をつくっていくことが、充実した生活につながり学級目標等の実現にもなることを話す。